

子どもの居場所プロジェクト

1, 目的

- ・困っている児童を受け止め、組織的に「子どもの生活を支えていく」ために必要な支援や対策を行う。

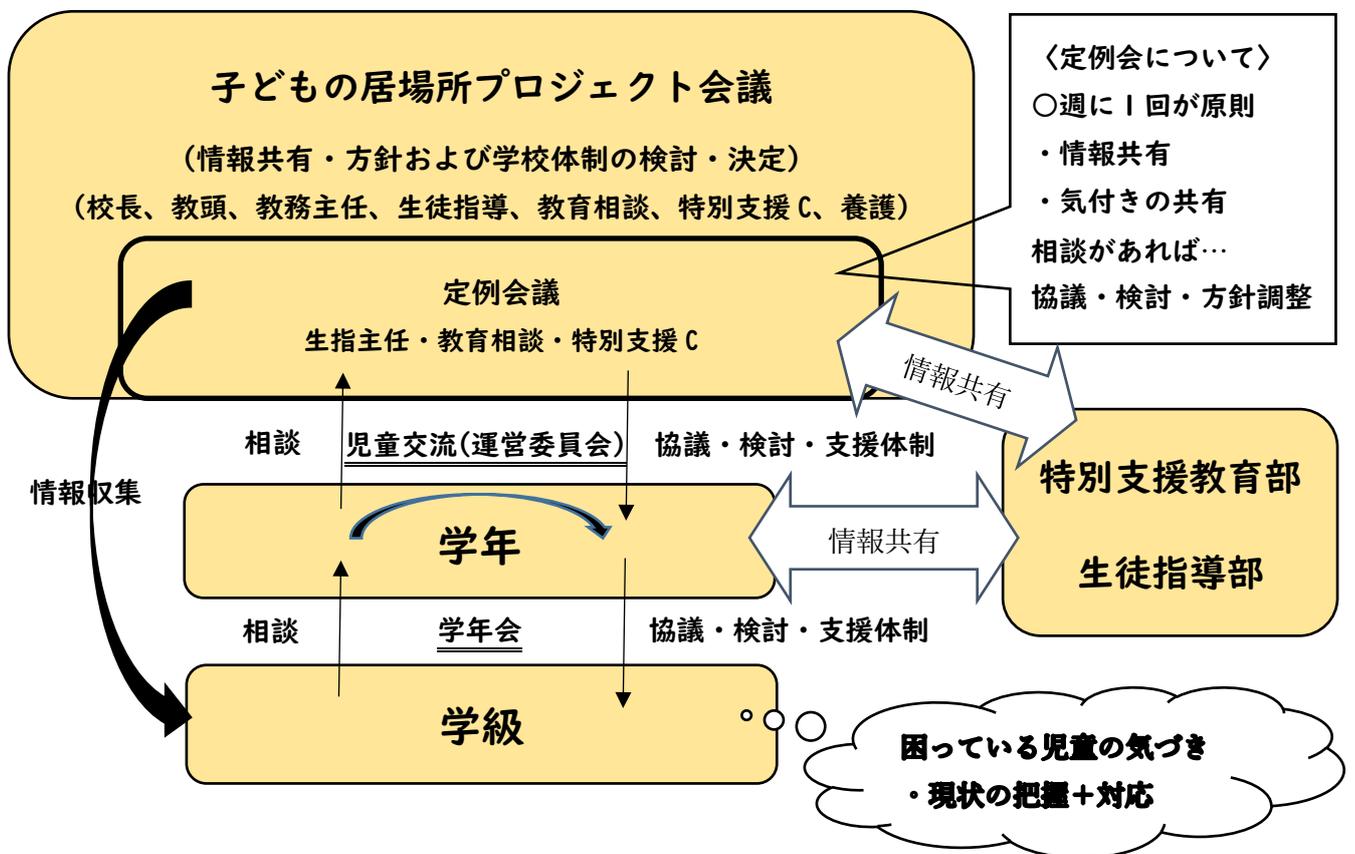
2, 対象児童

- ・学校生活において困っている児童

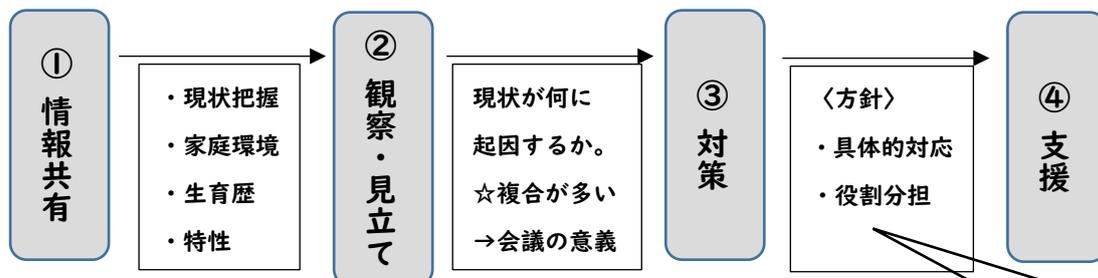
3, 困っている児童とは

- ① 特別な支援を必要とする（学習面、対人関係、集団性…等）
- ② 環境（家庭、生育歴…等）に起因する言動および精神的・身体的症状

4, 組織体制図



5, サポートシステム (①~④のサイクルで見直していく)



6, 基本方針

- (1) 児童を多角的に深く・広く見つけ、子どもにとって必要な支援を行う。
- (2) 子どもの変化を敏感に捉え、適切なタイミングで支援を行う。
- (3) 保護者や関係諸機関との連携を密に行い、支援の方向性を共有する。

- 子ども (本人)
- 家庭 (保護者)
- 関わり (周囲)
- 関係諸機関との連携

7, 教育相談活動の充実に向けて

- ・カウンセリングマインド（以下 CM）を生かす。

【CMの基本的な考え方】

心理的事実（子どもの立場に立っての気持ち）は無条件に受け止めるが、客観的事実（誤った言動）は教師の立場に戻って指導・支援する。

3 CM の活用

CM1 心理的事実の需要

CM2 だれもが必ずよい点をもつ

CM3 だれもが自分で考えることができる

①聞く ②聴く ③訊く

※「訊く力」の重要性 → 児童自身が解決を見いだすことを支援する訊き方

【カウンセリングの3つの様態と援助レベル】

カウンセリングの3様態と援助レベル		
<p>①開発的カウンセリング すべての子どもに対して、一人ひとりの個性の伸長や発達を援助し、より教育的効果を得られるよう支援する カウンセリング</p>	<p>②予防的カウンセリング 本格的な問題行動に至る前に予兆を発見し、早期対応や積極的予防策を行うカウンセリング 例: いじめ問題が深刻化する前の段階</p>	<p>③治療的カウンセリング 心理的な問題解決のために行う専門家による1対1の面接 例: SCIによる相談室での面接</p>
<p>〈1次的援助レベル〉 すべての子どもがもつ発達上のニーズに対応する援助 例: 友だちとの付き合い方</p>	<p>〈2次的援助レベル〉 教育指導上配慮を要する子どもへの援助 例: 不登校傾向、不安の強い子</p>	<p>〈3次的援助レベル〉 特別な援助が個別に必要な子どもに対する援助 例: 不登校、いじめ、LD</p>

8, なごみルームのあり方について

【目標】

- ・どんな子どもでももしっかり受け止める「器」の機能を担う。

【方針】

- ①安心できる場所
- ②自分を見つめなおす場所
- ③不登校になるのを食い止める場所
- ④教室復帰を目指した中間地点

9, 児童一人ひとりの居場所を大切にするための視点

- ①教師から率先して行動し、一人ひとりを大切にする姿勢やルールを守る態度を示す。
- ②集団におけるルールを明確にし、子どもたちが安心して過ごせる場所にする。
- ③教室の整理整頓を心掛け、学習に集中しやすい環境作りに努める。
- ④「わかる」「できる」が実感できるユニバーサルデザインの視点を生かした授業を展開する。
- ⑤「つまずき」を解消するための個別指導の機会を設定する。
- ⑥「指導したこと」を実施するための場を提供し、集団作りに生かす。
- ⑦ソーシャルスキルやエンカウンター時間を設定し、仲間とのつながり方を考えさせる。